

令和7年5月7日

情報公開・個人情報保護審査委員会 御中

最高裁判所事務総長

理由説明書

苦情申出人は、東京高等裁判所（以下「原判断庁」という。）がした開示の判断に対し、4月3日付け（同月4日受付）司法行政文書の開示に関する苦情の申出書に記載のとおり主張しているが、下記のとおり当該判断は相当であると考える。

記

1 開示申出の内容

東京高裁の裁判事務の分配等に関する申合せ集（現在有効なもの）

2 原判断庁の判断内容

原判断庁は、1の開示申出に対し、3月13日付けで開示の判断（以下「原判断」という。）を行った。

3 最高裁判所の考え方及びその理由

(1) 原判断庁において、1の開示申出に係る文書（以下「本件開示申出文書」という。）を探索したが、本件司法行政文書開示通知書記1の(3)及び(4)記載の各文書（以下「本件対象文書」という。）以外の文書は存在しなかった。

(2) これに対し、苦情申出人は、開示された司法行政文書以外にも、本件開示申出文書に該当する司法行政文書が存在すると思われる旨主張する。

しかしながら、原判断庁において、本件対象文書以外に本件開示申出文書を作成又は取得する必要はなく、実際にも作成又は取得していなかったものであり、原判断に不合理な点はない。

(3) よって、原判断は相当である。